

特別インタビュー②

杉山和佳子

(インテリア
コンサルタント)

「リフォームを、もっと身近に考えてみて」



杉山 基本的にエンドユーザーさんに空間を提案しています。現在はリフォームがメインですが、インテリアコーディネート依頼から話が広がることもあります。

——改装が多い？

杉山 まだなかなか一般消費者のみなさんにスケルトンリフォームする感覚が浸透していないようです。お客様も「どんなことができるの？」という感じで、メインの一部屋だけ、水回りからという感じですね。3年前に和室をリビングにしたお客様が、今お風呂や洗面など水周りを素敵にしたいと依頼して下さったりしています。ステップでお声がけしてくださるのでこちらも楽しんでやっています。

——そういったステップは当初のリフォームの際から計画されているものですか？

杉山 そうですね、結構計画的に考えられている方は多いです。実際は予算などのご都合があるので、今回はどこまでやったほうが予算を抑えられるとか、工事的なアドバイスや次回を見越したプラ

ニングをしています。お客様も資金が集まったらこれをしたというイメージが湧きますから。

——長年のお付き合いですね。

杉山 工事だけでなくカーテンやクッションといった小物のコーディネートまでしているんです。どこに相談していいかわからないことを聞ける専属のハウズドクター的な感じですね。水栓の調子なども、「とりあえず杉山さんに聞いてみよう」という。

——消費者の方はどういう希望が多いんでしょうか。

杉山 人によって違いますが、今までは広くすることが多かったんです。住宅の壁を抜いてリビングを広げるような工事が多かったのですが、去年からは子供が成長してきて、子供部屋が欲しいという逆パターンもありました。部屋を増やす工事は増えていますね。

——今まで手がけた面白い事例などはありますか。

杉山 生活のスタイルはお客様の次第なので、築40年超のご実家の2階をリフォームし、靴を履いたまま暮らせるようにタイル張りにした例もありました。家づくりにルールはありません。実現することに価値があるので、いろんなメ

ーカーのものの組み合わせ、工事レベルで工夫したり、オーダーメイド、たまにDIYも含めながら実現しています。

——一件にかけられる期間は。

杉山 プランニングには3カ月以上かかります。金額も見積もりも、バックのようなものはないので一つ一つ。お客様にも自分たちの生活スタイルを見直していただきませ。僕たちが何が一番重要なかなんてお話をしていたら、優先順位を整理して、そこにかかる予算などを一緒になって考えて頂くプランニングも3回、4回となつてきますよね。だから3カ月ぐらいはかかるんです。

——これは実現が難しい、ということはありますか。

杉山 何事もメリット、デメリットがありますので、ご提案の際に両方をお話することでお客様自身もそこで一度実現の可否を考えます。たとえば予算の壁があるなら、このランクを落とせば実現できるという選択肢もあるので、いろいろなお方法をご提案します。ですがそもそも、実現できないことはないと思うんです。すべて希望通りは難しいかもしれませんが、予算なりのデザインやスタイ



▶間接照明の造作家具の一例。シックでムーディーな大人のくつろげる空間に仕上げた。

「洋服に個性があっても、住まいには発揮できてない」

ルは、品を変え方法を変えてできると思うので。最終的に暮らしたときに希望に近いものができればいいかなと思っています。

——ではあまり自分たちのカラーは出さない？

杉山 「ハウスメーカーには作れないもの」というコンセプトはあります。お客様の個性を引き出すのが仕事だと思っているので、固定観念を外して、快適なものを提案すると言うポリシーでコンサルティングしています。皆さん、洋服に個性はあっても、住宅にはまだ個性が発揮しきれていない。「模様替えや小物だけでなく、間取りや設備も変えられる」という啓蒙活動だと思っています。

——そうして10年続けてこれらたんですね。

杉山 はい。私はインテリアコーディネーターから出発しましたが、消費者には身近じゃない存在ですよ。何をやってくれるの？どこにいるの？ どうやって連絡を取るの？ という感じなんです。生活に密着した立場でアドバ

イスをさせていただくので、もっとエンドユーザーさんに知ってもらいたいなと思っています。

——完全にコーディネートシヨンのみのお客様もいるのですか？

杉山 はい、ありますよ。新築の家を買われた方の家具や窓周り、照明、アートやグリーンも手がけます。インテリアコーディネートをきっかけに、収納のご相談をいただくことも。

——今までお客様の要望を聞いてきて感じることは？

杉山 まだまだ「部屋の壁は壊せない」と思っている方が多いんです。壁を壊して、間取りや家の内部の配置を換えられることを。そういう空間作りは家の一部でもできるということを伝えていきたいですね。一方で、お客様の話をいろいろ聞いてみると、知識が深くなっていく印象もあります。

——雑誌やTV番組など、リフォームを扱う媒体も増えていきますね。

杉山 ええ。確かに全部を自分で選ぶのは大変なことなので皆さ

んぐったりされるんですが(笑)、生活や使い方をイメージしながら一つ一つ選ぶというのは価値あることです。

——そうした住まい作りのポイントとは。

杉山 インテリアを素敵にしたという発想から出発するのと、機能動線に関する悩みから出発するのと、2つのパターンがありま。問題点や改善点が見出されると、そこからいろんなことが見えてきます。それがリフォームやリノベーションに繋がるんですよ。

——動線の悩みという点。

杉山 皆さん「収納が少なくて」とおっしゃるんですが、お宅に何うとクローゼットの上方にスペースが余っているんですよ。ここに一枚棚板があれば活用できるというようなケースは多いんです。お客様が気付かない、見落とししている部分を私たちプロがアドバイスさせていただきますわけですよ。

——現場を見に行つて。

杉山 そうです。まず私たちは現地を見ます。よく「見積もりの

概算が欲しい」とメールで図面など送ってこれるのですが、現地の壁や床がどうなっているか、予測がつかないとアドバイスができないので、まずは現地を見せていただいて、状況を把握します。やっぱり「どのぐらいかかるんだろう」とか「下見に来てもらったら施工を頼まなくてはいけないのでは」など、皆さん不安が多いようです。でも、お会いして「ここはこういう床なのでこういう風にならないとできない」ということもきちんとお話しさせていただく。そして安心していただいて、そこで初めてプランニングができるんです。

——現場に実際に来るのを躊躇される方もいる？

杉山 いるにはいますが、まずメールで下見の必要性をきちんと説明しておく、拒否される方はいらつしやらないですよ。

——その上で出来るできないを。

杉山 そうですね。基本的に実現できないことはないのですが、まずお客様が「こうしたい、ああしたい」と持つていらつしやる具体的なイメージに、「これをするためにはこれを壊さないと出来ないかもしれない、それには予算がこのぐらいかかるかもしれない」



◀木造戸建てをリフォームしたバスルームの施工例（写真上から2番目）と子ども部屋の提案（下）。広い部屋を3分割した子ども部屋は、それぞれ明るいパステルカラーのクロスで華やかにまとめた。「壁紙は洋服を着替えるように、節目に合わせて変えてもいい。色柄のあるものも、家具やインテリアとうまく調和すれば素敵な空間に」と杉山氏。



というような説明をします。そこをきちんとしていないと、後々になって「思ってた通りにできない」ということが出てきてしまうので、それをお客様にも納得していただく必要があるんです。今は具体的なイメージを持っていてもいらっしやいます。女性で働いていて持家のある方なんかは積極的です。

——女性の方が関心が高い？

杉山 それはあります。私はコ—ディネーターがもっとリフォームを実現・アドバイスできるようなっていきべきだと思っっています。そういう分野は女性が活躍できる部分が結構あると思うんです。——女性ならではの見方もありますしね。

杉山 そうなんです。普段自分

の感じる不便などから、ちょっとした工夫をしたり。「こうすれば使いやすいんじゃないか」とアドバイスができる。そういうのはやってるうちに楽しくなってくるんですよ。キッチンとか、化粧品収納なんかはスムーズに提案できますし、喜んでいただけます。——お話を聞いてると楽しそうですね。

杉山 ええ。お客様によって毎回違うものを作るので、楽しく勉強しています。私たちはお客様の生活のレベル、その方自身の性格やお子様とのコミュニケーション、ライフスタイルまで考えます。

置いた家具やお子様のおもちゃが散らかることも想定し、生活に密着してアドバイスしています。後のリフォームを見越した提案も、

そこに住み続ける限りの人生をイメージしてご提案していますよ。——お客様は将来のことを想定できていますか？

杉山 あまりイメージできないようですよ。例えばお子様が成長されることや、ご高齢になってからとか、ご両親との同居とか。結構、引越しのとき以外に家や生活スタイルのことを考えるタイミングってないんですよ。「不便だな」という思いもなんとなく見過ごしてたり。こちらが案を出して初めて「僕たちはこういうスタイルが好きかもしれない」と気付かれる方もいらっしやいます。

——もっと日頃から考えたほうがいいということでしょうか。

杉山 そうですね。季節によってお洋服は変えるのに、カーテン

は10年間吊りっぱなしということもあります。人生の基礎である住まいを考えて「毎日家に帰るのが楽しいな」と思うことで団欒が生まれたり、違うライフスタイルが見えてくることもあるので、もっと衣食住の住を考えてみて欲しいなと思います。壁のクロスにしても、無地や白以外も綺麗なものだということなど、まだまだ皆さんがご存じない部分はあると思います。壁紙を貼り替えるのもぼろぼろになってからではなく、成長の節目などで気分転換するように行えるということを広めていきたいですね。「意識や興味があることを家の中で実現できる」ということにあまり気付かれていないので、一步一步、一般消費者の方に直接伝えていきたいと思っています。

すぎやま・わかこ●L.C.A. Infinity代表、インテリアコンサルタント。20代の半ばに「女性だからこそできる仕事がしたい」と考え転職、東京ハウジングアカデミーでインテリアの勉強を始める。リフォーム会社を経て独立し、2003年、「わかりやすい住まいの情報提供」「気軽に相談できる身近な会社」をコンセプトに事業を開始。設計デザインから工事まで、住宅や店舗など幅広く手がける。